

# 奈良県の地震

## 【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

## 【奈良県地震概況】

## 【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の一覧】

## 【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図】

## 【地震一口メモ】

活断層について

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため1989年1月より月1回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

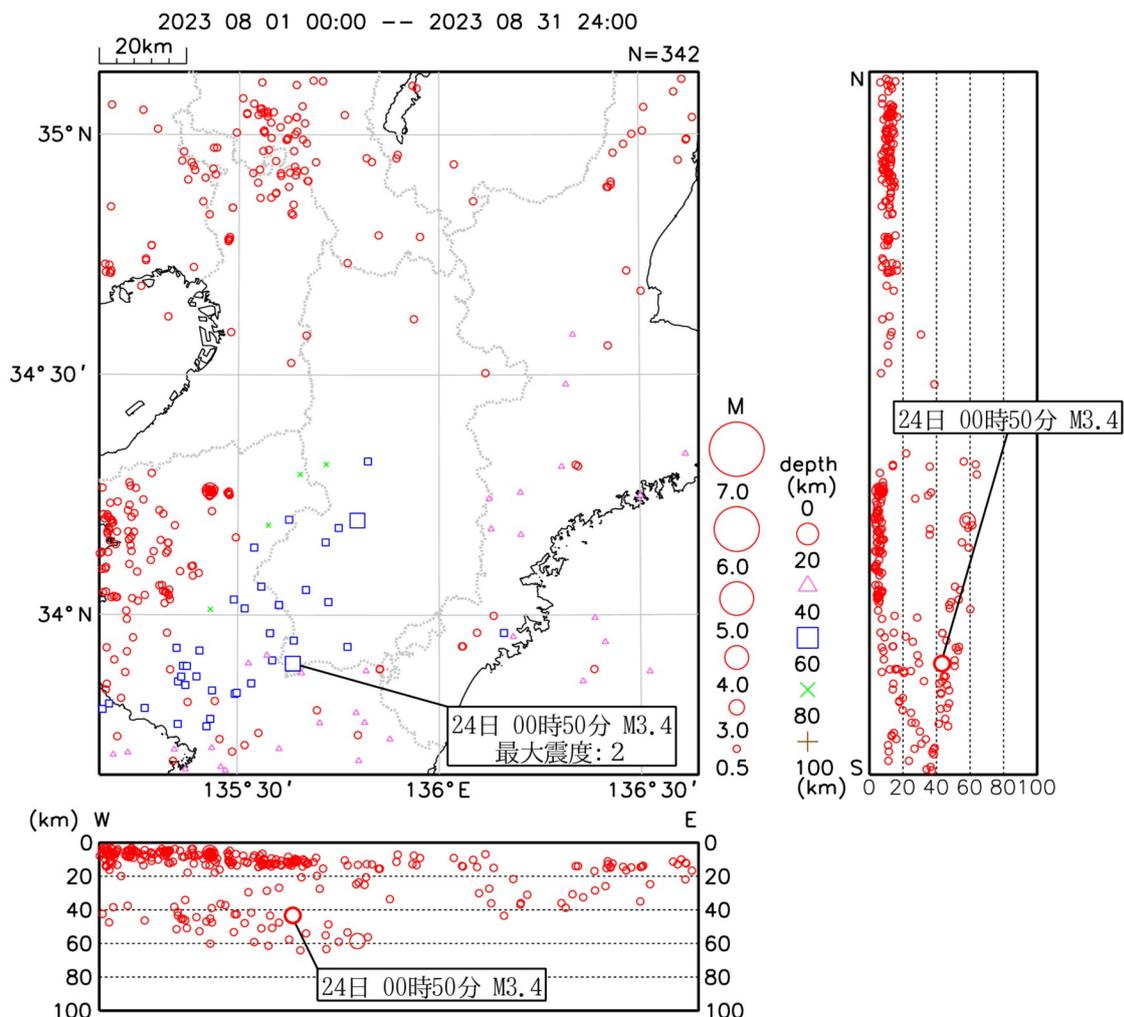
奈良地方気象台

2023年8月

# 【奈良県の地震活動図】

## 震央分布図と断面図

地図範囲内に分布している震央の南北方向の断面図(右上)と、東西方向の断面図(左下)で、地震の垂直分布を表しています。これにより、マグニチュード(M)の大きさと深さによる地震発生状況が把握しやすくなります。



## 【奈良県地震概況】

19日 14時 07分 福井県嶺北の地震(深さ 10km、M4.3: 地図範囲外)により、奈良県内では山添村で震度1を観測しました。

24日 00時 50分 奈良県の地震(深さ 43km、M3.4)により、奈良県内では天川村で震度1を観測しました。

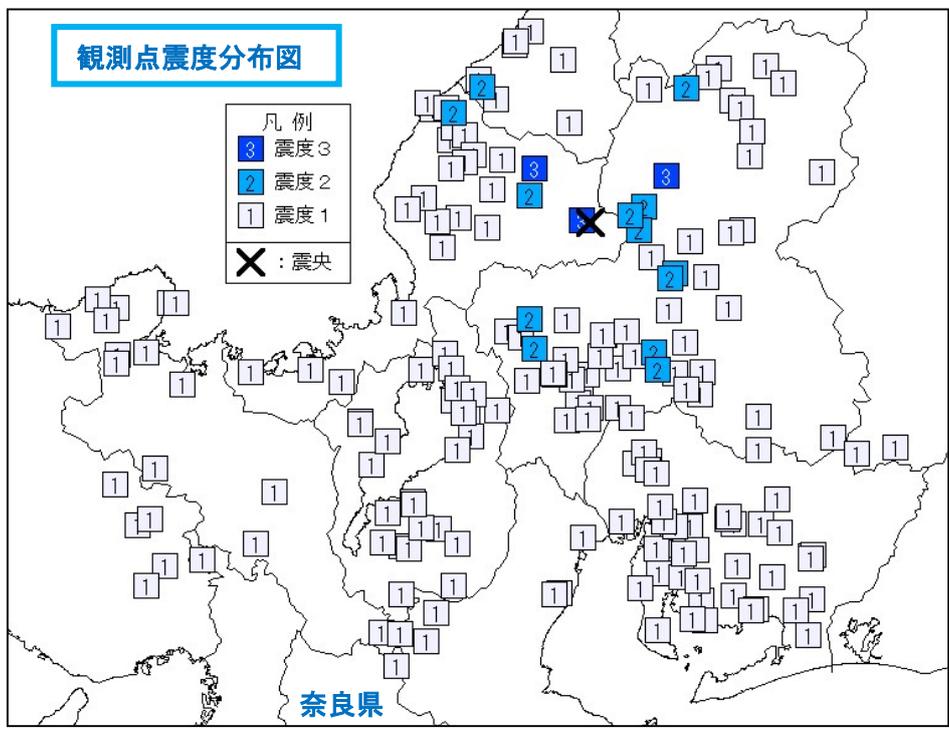
## 【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の一覧】

震源時(年月日時分)	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	M
各地の震度 (奈良県内のみ記載)					
2023年08月19日14時07分	福井県嶺北	35° 54.2' N	136° 41.6' E	10km	M4.3
震度 1 : 山添村大西*					
2023年08月24日00時50分	奈良県	33° 53.9' N	135° 38.2' E	43km	M3.4
震度 1 : 天川村洞川					

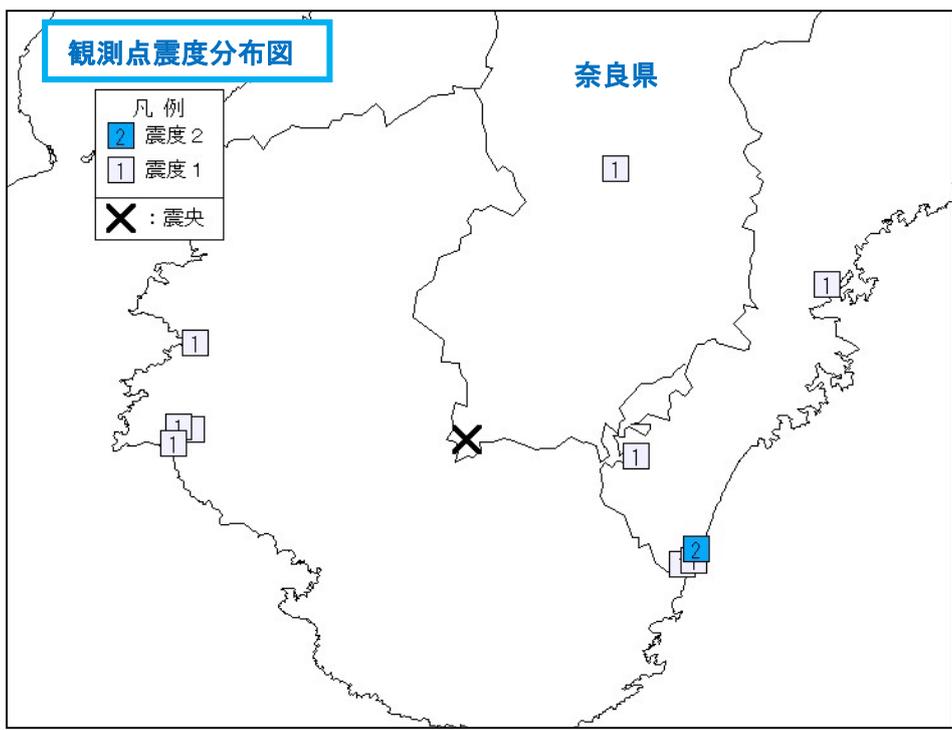
\* 印は地方公共団体等の震度観測点です。

# 【奈良県で震度1以上を観測した地震の震度分布図】

2023年08月19日14時07分 福井県嶺北 35° 54.2' N 136° 41.6' E 10km M4.3



2023年08月24日00時50分 奈良県 33° 53.9' N 135° 38.2' E 43km M3.4



# 【地震一口メモ】

## ～活断層について～

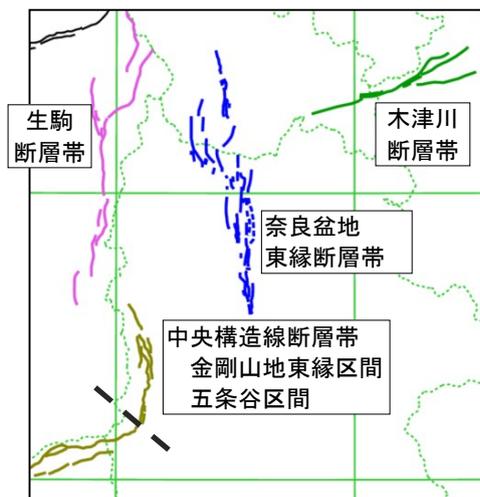
日本の陸域には約 2000 の活断層（過去に繰り返し地震を起こし、将来も地震を起こすと考えられる地中のずれ）があるとされていて、兵庫県南部に甚大な被害をもたらした 1995 年の兵庫県南部地震（マグニチュード 7.3、最大震度 7）は六甲・淡路島断層帯の一部が活動して発生したものでした。

この地震を契機に地震調査研究推進本部が発足し、兵庫県南部地震を引き起こしたような活断層の調査が推進されました。全国に多数分布する活断層の調査を効率的に実施するため、活動度や活動した際の社会への影響度等を考慮して基盤的な調査対象として主要活断層帯（現在、114 断層帯）を選定しています。

これら主要活断層帯は一通り調査が行われ、調査結果から予想したマグニチュード、地震発生確率、地震後経過率などが評価されています。その結果は、地震調査研究推進本部のホームページで公開されています。

奈良県周辺にも活断層は多くあり、その中から主要活断層帯の位置と評価を示します。

奈良県周辺の主要活断層帯



奈良県周辺の主要活断層帯の評価

断層帯名 活動区間	予想した マグニチュード	30年以内の 地震発生確率	地震後経過率
奈良盆地東縁断層帯	7.4程度	ほぼ0%～5%	0.2-2.2
木津川断層帯	7.3程度	ほぼ0%	0.007-0.04
生駒断層帯	7.0-7.5程度	ほぼ0%～0.2%	0.2-0.5
中央構造線断層帯 金剛山地東縁区間	6.8程度	ほぼ0%	0.2-0.3
中央構造線断層帯 五条谷区間	7.3程度	不明	不明

地震後経過率とは、最後に地震が発生した時期からの経過時間を平均活動間隔で割った値です。

30 年以内の地震発生確率を見ると高い値とは思えないかもしれませんが、兵庫県南部地震の発生直前の 30 年以内の地震発生確率は 0.02～8%、地震後経過率は 0.5-1.2 でした。地震後経過率が 1 より大きいものや近いものは、規模の大きな地震の切迫度が高いと判断できます。また、活断層がない地域も活断層が発見されていない可能性があることや 2018 年 6 月の大阪府北部の地震（マグニチュード 6.1、最大震度 6 弱）のような規模の地震は、日本ではどこでも起こる可能性があります。

そのため、家具の固定、緊急地震速報を利用した訓練（シェイクアウト訓練）への参加、非常食の備蓄、安全スペースの確保などの地震への備えをお願いします。

本紙は奈良地方気象台のホームページでも過去 6 年間程度分掲載しています。  
URL : <https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.htm>